

INFORMATION

プラネタリウム夏の番組

クイズ! スター&プラネット2004

名物「クイズの出るプラネタリウム」の第11弾。今回は『生まれる』をテーマに、さまざまなクイズを出題。

7月17日(土)→9月5日(日)

夏休み中の平日	11:00	14:30
土曜日	13:30	17:30
日・祝日	11:30	15:30
9月の平日	16:00	

今夜の星空と天文ニュース

今夜の星空の見どころと最新の天文情報。

夏休み中の平日	13:00	16:00
土曜日	15:30	19:00 (休演日あり)
日・祝日	13:30	

キッズアワー

幼児～小学校低学年向け番組。

土曜日	11:30 (上映日に注意)
-----	----------------

7月17・31日「たなばたものがたり」
8月7・14・21日「星座はじめて物語」
9月4・11日「おつきさまものがたり」

MUSIC PLANET

ミュージック・プラネット

満天の星と心地よいサウンドが織りなすファンタジックなひとときをどうぞ。

8月14日(土) BEGIN特集
9月11日(土) BEGIN特集

土曜日 19:00

上記以外のこの時間帯は、『今夜の星空と天文ニュース』となります。詳しくはホームページをごらんください。

■ 料金 (入館料を含みます)

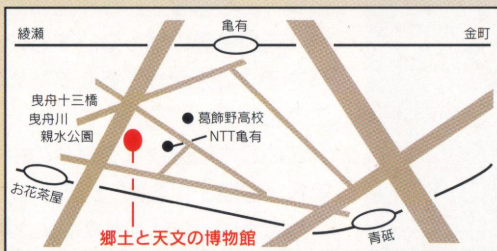
大人450円/小・中学生150円/幼児50円
土曜日は小・中学生以下無料

■ 休館日・休演日

月曜日 (祝日は開館)
第2・4火曜日 (祝日は開館し翌日休館)
9月7日(火)～10日(金) (番組入替のため)

■ 上映15分前までにご来館ください。

交通のごあんない



- 京成線 [お花茶屋] から8分
- JR常磐線 [亀有] から25分
- 京成タウンバス (有57 亀有一タウンバス車庫) [共栄学園] 下車徒歩5分
- 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

ホームページでも詳しくご案内しています。 <http://www.city.katsushika.tokyo.jp/museum>

葛飾区



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101

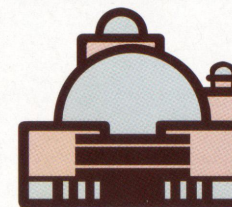
R100
©2004 R100. All rights reserved.



PLANETARIUM

クイズ! スター&プラネット2004

Vol.53 2004・夏



KATSUSHIKA CITY MUSEUM

2004年・夏の星空より

明け方の星空を見てみよう。



アンドロメダ座

ペルセウス座

金星

東

プラネタリウムでシミュレーションした
8月中旬午前3時ごろの東の空

■金星を見よう

今年の夏、夜明け前の東の空に、ひときわ明るく輝く星があります。地球のひとつ内側をまわっている太陽系の惑星、金星です。内側をまわる金星や水星は、いつも太陽に近いところで輝いています。

今年の6月8日、金星が太陽の前を通るとい珍しい天文現象がありました。明け方の東の空に見える金星を『明けの明星』、夕方の西の空に見える金星を『宵の明星』といいますね。今年は6月8日をさかいに、宵の明星から明けの明星へと呼び方が変わったというわけです。

早起きをして、冬の星座とともに輝く金星を探してみてください。

■ペルセウス座流星群がやってくる

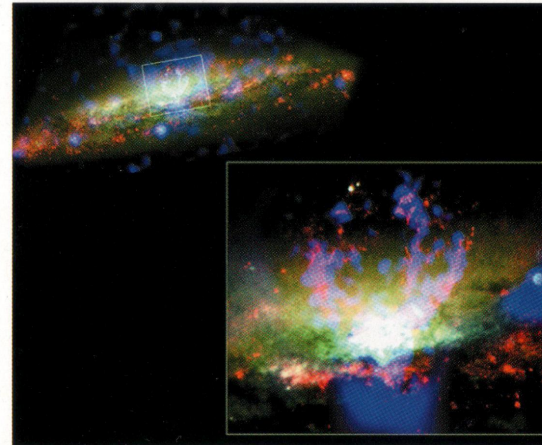
毎年8月中旬に、流れ星がたくさん見える日があります。今年は8月12日前後。ペルセウス座の方向から流れるように見えるため、ペルセウス座流星群と呼ばれています。ペルセウス座が東から昇ってくる真夜中から明け方にかけて、1時間に数十個の流れ星が見えることでしょう。街明かりの少ない空のきれいなところほど、たくさんの流れ星に出会えます。

ペルセウスとはギリシア神話の英雄で、蛇の髪の毛を持つ怪物メデューサを退治しました。このメデューサの魔力を使ってアンドロメダ姫を助け、2人は結ばれます。夜空では、アンドロメダ座を追いかけるようにペルセウス座が昇ってきます。

宇宙では今も星たちが生まれている。

いまま、宇宙のどこかで新しい星が生まれています。星はどのようにして生まれるのでしょうか。ハッブル宇宙望遠鏡がとらえた星の誕生のドラマを紹介しましょう。

■銀河の中で、一斉に生まれる星たち



爆発的に星が生まれている銀河『NGC3079』の中心部の合成写真。青い部分はX線天文衛星『チャンドラ』の画像。

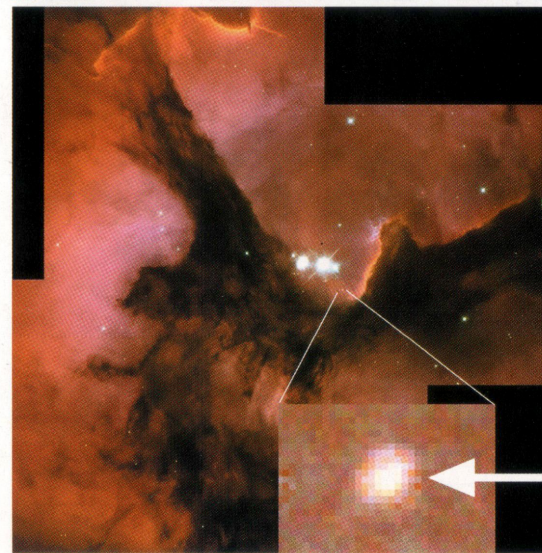
NASA / CXC / STScI / U.North Carolina / G.Cecil

太陽のような星(恒星)は、宇宙にただようガスの中から生まれてきますが、時にはたくさんの恒星が一斉に生まれることがあります。

この写真は、『おおぐま座』の方向にある銀河の一つ。銀河の中心から4本のガスの柱が渦を巻きながら吹き上がっています。青い部分は非常に温度の高いガス。銀河の中心が、まるで煮えたぎる鍋のお湯のように激しく活動しています。

この激しく活動するガスから、たくさんの恒星が生まれているのです。

■星雲の中で、星が生まれ、惑星が生まれる



三裂星雲『M20』の中心。

NASA / ESA / The Hubble Heritage Team (AURA / STScI)

天の川がもっとも明るく見える方向にある『いて座』には多くの星雲があります。こちらはひとつの『三裂星雲』。赤く光る星雲が、暗黒星雲の黒っぽいすじによって3つに分かれて見えるためにこの名前がついています。

この3つに分かれる部分の中心でも、恒星が生まれています。

たとえば、矢印の先のほんやりした光は、ガスにつつまれた生まれたての恒星の姿です。恒星をつつまガスの中から、この恒星のまわりを回る惑星が生まれてくると考えられています。